

検定試験の自己評価シート

自己評価実施日:平成29年4月20日

検定事業者名: 一般財団法人 自然環境研究センター

検定試験名: 生物分類技能検定

【5段階評価の目安】

A:十分達成されている B:おおむね達成されている C:一部達成されている D:あまり達成されていない E:ほとんど達成されていない

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
<p>【評価の視点】 組織としての理念・目的が明確であり、検定試験を継続的・安定的に実施するために必要な組織体制や財務基盤を有するとともに、実施主体自身がPDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業を改善していく組織となっていること。また、受検者や利用者(学校・企業等)への適切な情報公開と個人情報の保護がなされていること。</p>						
1 実施主体	① 組織	1	○検定試験を実施する組織としての理念や目的が明確である。	当センターは、国内及び国外の自然環境の保全に関する調査研究、情報の収集整理及び提供等を行い、もって自然環境保全の推進に資するとともに、人間社会と自然との共存関係をいかに保つかを、科学的・政策的に研究する機関として1978年に設立され、その目的の達成のため次の事業を行っている。 1.野生生物の保護管理 2.生物調査、情報収集・処理 3.自然とのふれあい 4.普及啓発 【センター概要】 http://www.jwrc.or.jp/profile/index.htm	A	
		2	○検定試験を実施することの社会的使命が明確である。	生物分類技能検定は、生物に関心をもつ方々を対象に、分類の知識向上を目的とし、野生生物や自然環境の調査・保全を担う人材を育てるとともに、動物分類学や植物分類学の発展に寄与しようとするものである。さらに、野生生物調査に関わる生物技術者の育成と、自然環境調査の精度向上への貢献をめざし実施している。 【生物分類技能検定について】 http://www.jwrc.or.jp/approval/index.htm	A	
		3	○検定試験を実施する組織(役職員体制、事務処理体制、作問体制、危機管理体制等)が、検定試験の目的、使命を達成するための組織として適切に構成されている。	■役職員体制…検定試験に関する役職員の権限及び職務については「定款」及び「組織規定」に定めている。 ■事務処理体制…「組織規定」に基づき、生物分類技能検定事務局を設置し、円滑な事務処理を行う体制を築いている。 ■作問体制…学識経験者による「検定委員会」を設置している。検定委員会は検定委員および試験委員から成り、試験の実施と可否の判定を行う。検定委員は公開、試験委員は非公開としている。 ■危機管理体制…不測の事態に備えマニュアルを整備し、対応スキーム、役割を明確にしている。 【試験概要】 http://www.jwrc.or.jp/approval/outline/index.htm#kikan	A	
		4	○手続等に関する問い合わせ、試験後の問い合わせ先が設置され、受検願書やホームページ等に適切に公開されている。	問合せは生物分類技能検定事務局で対応し、問い合わせ方法はポスター、フライヤーや公式ホームページに掲載している。 電話:03-6659-6110(受付時間9:30~17:30、土日祝除く) 公式ホームページ: http://www.jwrc.or.jp/approval/index.htm	A	
		5	○目標(Plan)ー実行(Do)ー評価(Check)ー改善(Action)というPDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に事業を改善している。	受検者や学校検定関係者、委員等からの意見や要求は、検定事務局で取りまとめ、定期的開催する委員会に諮り、PDCAサイクルに基づき、組織的・継続的に改善を行っている。	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
1 実施主体	② 財務	6	○実施主体の財務経理情報を備えている。(検定試験を継続して実施している場合には、複数年分。) (財務経理情報の例) 収支計算書、貸借対照表、財産目録等	■備えている(収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書)	A	
		7	○財務経理担当者等に対する内部牽制体制が確立されている。	複数の担当者で役割分担し、上長がチェックを行う体制を築いている。	A	
		8	○財務経理に関して、定期的または適宜監査を受けている。	■受けている(■内部監査、■外部監査、□その他)	A	
		9	【公益性のある実施主体の場合】 ○検定事業とその他の事業との関係や財務経理情報等の区分けが明確である。	その他の事業との区分会計を行い、区分けを明確にしている。	A	
	③ 情報公開・個人情報	10	○情報公開する項目や方法などを明確に定めている。	「情報公開規定」に定めている。	A	
		11	○受検者の個人情報保護に関する方針やマニュアル等が整備されている。	個人情報保護に関する方針は「個人情報管理規定」に定めている。 「プライバシーポリシー(個人情報保護基本方針)」を定め、ホームページに掲載している。 【プライバシーポリシー】 http://www.jwrc.or.jp/profile/privacy.htm 試験業務の一部を委託している企業はプライバシーマークを取得している。	A	
		12	○その他の特記事項等。	個人情報保護に関する客観的な指標として情報セキュリティマネジメントシステムISO27001(ISMS)の認証を取得している。(平成28年3月認証) 【情報セキュリティマネジメントシステム】 http://www.jwrc.or.jp/profile/isms.htm	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
2 実施 内容	【評価の視点】 検定試験の目的や内容が明確であり、これらと整合する適切な測定手法や審査・採点の基準等を有すること。				
	① 目的	13	○どのような知識・技能を測るかという検定試験の目的が明確である。	試験では、生物学の基礎知識、生物分類の基本、野生生物や身近な動植物に関する知識、標本作製に関する知識、その他(動植物の利用等)に関する知識を問う。 【生物分類技能検定】 http://www.jwrc.or.jp/approval/index.htm	A
	② 内容	14	○検定試験の内容が以下の点で明確で、検定試験の目的にかなっている。 < 検定試験で測る具体的な知識・技能とその水準 > 領域(分野)／対象層(受検資格等)／試験範囲／難易度／その他(特色等)	検定試験で測る具体的な知識・技能とその水準の詳細については、ホームページで公開している。 【各級の説明】 http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/index.htm 【試験区分詳細】 http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/naiyo.htm	A
		15	【学校の単位認定や進学、就職等の際に活用される検定試験の場合】 ○当該検定試験と学校教育や職業能力との関係性が示されている。	当検定は自然環境及び野生生物調査・保全に関わる業界で、生物の同定を伴う業務に必須の資格として認知されている。1級、2級の登録者は、環境省の「一般競争(指名競争)参加資格申請」の有資格者として認められているほか、農水省、国交省、地方自治体などの自然環境に関わる調査・保全業務等の入札資格として広く活用されており、登録者は高い調査精度を担保する即戦力の技術者として期待されている。 採用において当検定の有資格者を「優遇」としている企業が複数ある。 当検定をカリキュラムの一環として導入している大学がある。 2017年4月現在、大学の推薦・AO入試において、当検定を入試課題として採用したり、入試評価項目に採用している学校が複数ある。 【入札資格】 http://www.jwrc.or.jp/approval/touroku/tender.htm	B
		16	【学校教育で活用される検定試験の場合】 ○学習指導要領等に準拠していることについての明確な説明等がなされている。	教材・試験問題は学習指導要領を考慮して作成している。	C
		17	【受験資格を制限する試験の場合】 ○年齢制限や事前の講座受講の有無等によって受験資格が制限されている場合には、その合理的な理由が示されている。	1級のみ受験資格を設け「2級当該部門合格並びに3年以上の実務経験」としている。1級の受験対象者は日本に生息する生物に関する広範な知識をもつ者で、その知識を基礎に環境アセスメント調査や生物調査等の業務において、特定の生物分類群に関する高度な専門知識と分類技能を活用し、技術者として中心的な役割を果たそうとする者と定めていることから、合格を目指すために最低限必要な具体的技能レベルとして、当該受験資格を設けている。 【1級】 http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/first.htm	A
		18	○その他の特記事項等。	全国農業高等学校長協会が実施する「アグリマイスター顕彰制度」の認定資格(A区分)となっている。 【全国農業高等学校長協会】 http://www.zennokocycokai.org/ ◆アグリマイスター/ tebikishinseiyoushii/ 一般財団法人産業環境管理協会が実施する「エネルギー・環境マネジャー(EEM)キャリア段位制度」の評価対象資格となっている。 【エネルギー・環境マネジャー(EEM)キャリア段位制度】 http://eemanager.jp/	-

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
2 実施 内容	③ 手段	19	<p>○知識・技能の測定手法(筆記試験、CBT試験、実技試験、面接試験等)、審査・採点の基準が適切である。</p> <p>1999年の試験開始以来、出題方法・出題内容・審査方法に改善を積み重ねてきた結果、現在の方法になっている。 4級～2級はマークシートと記述方式、実物問題を採用している。1級は一次試験として論文、二次試験として面接方式を採用している。合格基準点は4級、3級は100点満点中60点、2級は100点満点中70点と公表しているが、合格点は試験結果を考慮して調整を行うことがある。1級一次試験の合格基準点は経験問題が30点満点中18点、専門問題が70点満点中42点と公表、二次試験(面接)は採点基準に基づき審査を行い、委員が定める一定のレベルを達成していることで合格としている。 【1級】http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/first.htm 【2級】http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/second.htm 【3級】http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/third.htm 【4級】http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/fourth.htm</p>	A	
	④ その他	20	<p>○試験結果から得られるデータ等に基づき、検定試験の内容や測定手法、審査・採点基準等について、質の確保や継続的な改善を図っている。</p> <p>検定実施後、受験者の解答状況を分析し、その結果を委員会において検討し問題の改善等に役立っている。 検定実施後、委員会において各級の難易度やテーマ、合格率や不正解の傾向を分析し、問題の改善等に役立っている。 毎年度の実施結果に基づき、委員会において試験実施・採点方法、合否基準の適切性等を検討改善している。</p>	A	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
3 実施手続	① 事前準備	【評価の視点】 事前準備、事後対応を含め、適正かつ公正で透明性の高い検定試験の実施体制を有するとともに、受験手続を明確にした上で目的や内容、規模等に応じた適切な取組を行っていること。			
		21	○試験の実施規則・要項等の受験手続が定められている。	試験実施に関する規則は実施要項に定めている。受験申込上の注意事項、受験の手引き、受験案内書をホームページに公開している。 【受験申込上の注意事項】 http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/chui.htm 【各種書類のダウンロード】 http://www.jwrc.or.jp/approval/examinee/download.htm	A
		22	○試験実施前の情報管理対策(情報管理マニュアルの整備や担当者への研修・注意喚起など)が講じられている。 (例) 試験問題、解答等の作成、印刷、搬送、保管	情報セキュリティマネジメントシステムISO27001(ISMS)認証に基づき、情報管理対策に関する研修・注意喚起等が実施されている。 担当者には秘密保持を義務づけている。 検定委員、試験委員と秘密保持の誓約を義務づけた契約を交わしている。 学校検定を実施する学校に対しては事前に「試験業務委託契約書」を取り交わし、秘密保持を義務づけている。 検定関連情報へのアクセスには、物理的・電子的なセキュリティ対策を重ねて講じている。 印刷後の試験問題はビニール袋に厳封し各会場へ搬送している。	A
		23	○受験者に対し十分な出願期間が確保されている。	受験申込期間は、約1カ月半～2カ月半の期間を設けている。 受験者が最低限の学習ができるよう、出願の締切日から試験日までの期間を約1カ月～1カ月半に設定している。	A
		24	○受験料の適正性・妥当性について点検・検証されている。	検定試験が公平・公正に継続的に実施できる事を前提に、検定事業の改善等にかかる経費を踏まえながら、実施委員会で検討を行い、受験者の立場を考慮して検定料を定めている。	A
		25	【学校の単位認定や進学・就職等の際に活用される検定試験の場合】 ○児童・生徒等が不利益を被らないように、配慮がなされている。	■全ての児童・生徒・学生に対して公平に情報提供されるよう配慮されている。 希望に応じて資料を無料提供している。 ■実施時期への配慮がされている。	A
		26	○その他の特記事項等。	インターネットによる申込受付、コンビニ支払対応など、受験者の利便性に配慮を行っている。 学校検定実施校に対しては申込人数に応じた「実施委託金」を支払う制度を設けている。	A

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
3 実施 手続	② 試験 実施	27	○試験監督業務のマニュアル等が定められており、試験実施会場・機関に事前に配付されており、試験監督者等の共通理解が図られている。	試験監督マニュアルとして「実施要項」を作成し、次の項目を記載している。 ①運営スケジュールおよび試験準備に関する事項 ②試験開始から終了までの監督の仕方・注意点 ③「受験上の注意」の説明に関する事項(受験者への説明) ④受験者の質問等への具体的な対応例 ⑤答案回収・答案整理に関する事項 実施要項は事前に事務局から試験監督に配布し、予め不明点・疑問点を受け付けて試験当日の運営が円滑に進められるようにしている。	A
		28	○受検者の本人確認は、顔写真を添付した受験票の用意や身分証による照合など、本人確認が確実に行われるよう講じられている。	本人確認は受験票により試験監督官が行っている。2級以上の受験者については受験票への写真貼付を必須とし、より厳密な照合を行っている。	B
		29	○試験当日、天災や交通機関の遅延等があった場合には、試験開始時刻の変更や再受検の容認など、受検機会が確保について配慮されている。	試験当日の大幅な交通遅延等に備え、マニュアルを整備し、これに従った対応体制を構築している。 災害等特段の事情により会場が使用できず当日の受験ができなかった場合、早急に委員会を開催し対応を検討する体制を築いている。	A
		30	○障がい者について、検定試験の目的や内容、規模等に応じた一定の配慮が考慮されている。	申し出のあった場合は、車椅子用の机の準備を行う、バリアフリーで会場内を移動できるルートを案内する、等の対応をしている。	A
		31	【試験監督者の外部委託等を行う場合】 ○外部受託者等(法人・個人等)を総括する責任者が配置されている。	試験当日の本部及び会場責任者は、基本的に検定事務局スタッフか当財団職員を配置するが、外部委託を行う場合は、会場責任者を配置する。 学校検定実施校は申込時に予め決められた監督者(教職員)を配置する。	A
		32	【試験監督者の外部委託等を行う場合】 ○受検手続きに関する共通理解を図り、円滑に試験監督業務を遂行できるよう試験監督者への説明・研修が実施されている。	事前に実施要項を送付し、予め質問等の受付を行い理解を深めている。 試験当日には会場責任者から他の監督者に対し必要に応じた事前説明を行っている。	A
		33	【児童生徒や学生を対象とした検定試験の場合】 ○受検者の利便性確保の観点から、公平性を保った上で、試験実施会場として学校や民間教育施設等が活用されている。【期待】	札幌、東京、大阪、福岡に設置する試験会場は基本的に交通利便性の高い大学教室を借用するほか、学校単位で各地の児童・生徒・学生が受験できる学校検定制度を設けている。 試験日は、受験しやすい曜日を設定している(日曜日の実施)。	A
		34	【試験実施会場として学校や民間教育施設等を活用している場合】 ○公平性・公正性が確保(試験日、試験監督の体制、試験会場に試験に関する掲示物が無い等)されている。	教室内に試験に関する貼り紙等がないことを確認している。 必要に応じて会場の下見を行い、公正・円滑に試験が実施できることを確認している。	A

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
3 実施 手続	③ 事後 対応 等	35	○試験結果に関する一般情報(受験者数及びその構成、合格者数、合格率等)が、適切に公開されている。	公式ホームページで検定の過去18年分の試験結果を公開している。直近の3年分については特に詳細な資料を掲載している。 学校検定実施校については、試験結果を指導者宛に送付している。 【受験者数、合格率、登録者数など】 http://www.jwrc.or.jp/approval/outline/toukei.htm	A
		36	○受験者への学習支援の観点から、試験問題や正答が公開されている。 (ただし、試験の性質上、公開することができないものを除き、事後の作問等に影響を及ぼさない範囲で)	試験問題および解答は、結果通知発送日から約1か月間公式ホームページで公開している。 4～2級の試験問題、解答は当財団法人編の過去問題集で公開している。 3、4級については当財団法人編の解説集(編集版)を作成し公開している。 参考図書のリストをホームページで公開している。 【参考図書】 http://www.jwrc.or.jp/approval/documents/tosho.pdf	A
		37	○その他の特記事項等。	1級、2級合格者に対して登録申請(任意)の案内を送付している。 登録者名簿を年1回発行し、新規登録者に配布している。	A

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価	
4 検定 結果 の 活用 促進	検定 結果 の 活用 促進	【評価の視点】 検定試験の結果が、学習成果を示す指標として社会に適切に評価され、実際に活用されるため、検定事業者等において活用促進に向けた適切な取組を進めていること。			
		38	○検定試験の結果を証明する合格証や認定証等が発行されている。	試験日の約2カ月後に受験者に結果通知を送付している。 1級、2級合格者に結果通知を発行するほか、登録者に賞状型登録証を発行している。 3級、4級合格者全員に賞状型認定証を発行している。 別途、希望に応じて合格証明書、登録証明書を発行している。	A
		39	○合格証や認定証等が発行されている場合には、受験者が獲得した又は保持している知識・技能の内容が一見して判断し得る記載がある。	1級登録証には登録者が取得した級、部門、専門分野を記載。2級登録証には登録者が取得した級、部門を記載。3、4級認定証には合格者が取得した級を記載している。	B
		40	○試験結果の活用に係るニーズを把握するための取組(受験者や利用者(学校・企業等)に対するアンケート調査等)が行われている。	学校検定実施校の実施担当教諭を訪ね、試験結果の活用等に係るインタビューを実施し、運営の参考とした。 学校検定実施校担当教諭が出席する懇談会を過去に開催し、実施時期、試験内容等に関するニーズ把握を行い、事業への反映を行った。	A
		41	○その他の特記事項等。	登録者名簿を年1回発行し、新規登録者に送付する他、環境省、農水省、国交省、地方自治体等の自然環境関連部局約400先に送付し、活用促進を図っている。	A

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
5 継続的な学習支援	【評価の視点】 受検者の継続的な学習を支援するため、検定事業者等において適切な取組を進めていること。					
	継続的な学習支援	42	○段階的・継続的な学習をサポートする過去問題、類似問題などの参考となる資料が提供されている。	全ての級で試験問題の持ち帰りを認めている。 4～2級の試験問題、解答は当財団法人編の過去問題集で公開している。 3、4級については当財団法人編の解説集(編集版)を作成し公開している。	A	学習支援情報の提供について検討を進める。
		43	○学習意欲の促進のため、受検者の知識・技能レベルなどの情報を提供している。	1級一次、2級、3級、4級試験で受検者に得点を通知している。	C	
6 情報公開	【評価の視点】 学習者や利用者(学校・企業等)に対して、パンフレットやインターネット等を活用して、検定試験の実施主体や目的、内容、規模等に関する情報が公開されていること。					
	1 実施主体	① 組織	○実施主体の「組織」に関する情報が公開されている。	当財団の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、■その他)…組織の理念・目的 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、■その他)…組織規定(定款・寄付行為等) ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、■その他)…組織体制(組織図、役員構成、事務処理体制等) ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、■その他)…組織内容(事業計画書、事業報告書等) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、■その他)…問合せ窓口(電話番号、電子メールアドレス等)	A	
		② 財務	○実施主体の「財務」に関する情報が公開されている。	当財団の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…財務経理情報(収支計算書、貸借対照表、財産目録等)	A	
		③ 方針等	○実施主体の「情報公開や個人情報保護の方針等」に関する情報が公開されている。	当財団の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…情報公開の方針 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…個人情報保護の取組(方針等)	A	
6 情報公開	2 実施内容	① 目的	○検定試験の「目的」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…検定試験の目的(コンセプト)	A	
		② 内容	○検定試験の「内容」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…検定試験の領域(分野) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…特色 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…検定試験の対象者(受験資格等) ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…試験範囲 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…難易度(合格率等) 【該当項目がある場合】 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…学校教育・職業能力との関係性	A	
		③ 手段	○検定試験の「手段」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…検定試験の測定手法(筆記試験(多岐選択式、記述式等)、CBT試験、実技試験、面接試験等) ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…審査・採点基準やその変更点 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…試験問題の作成方法 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…合格点・設問別配点等 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…講座受講の必要性及び関連情報(必要経費・受講時間数等)	B	

大項目	中項目	小項目			中項目別実態・課題・改善の方向性等	
		評価項目	実績・理由・特記事項等	評価		
6 情報公開	3 実施手続	① 事前準備	○検定試験の「事前準備」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…受験手続(実施規則・要項等) ■公開(■web、■パンフレット、■募集要項、□その他)…出願期間・出願方法 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…受験料及び受験料以外に要する費用(合格証や認定証の発行手数料、登録料等)	A	情報の公開について検討を進める。
		② 試験実施	○検定試験の「試験実施」に関する情報が公開されている。	今後、公開について検討を行う。 ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…天災や交通機関遅延等への対応方針 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…障がい者への配慮措置 ※障害者への配慮は申し出に応じ対応している。	C	
		③ 事後対応	○検定試験の「事後対応」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…試験結果に関する一般情報(受験者数及びその構成(年齢別、業種別等)、合格者数、合格率等) ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…試験結果に関する一般情報(経年) ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…試験問題と正答	A	
	4 検定結果の利用促進	検定結果の利用促進	○「検定結果の利用促進」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…合格証や認定証等 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…検定試験の結果活用に関する情報(学校・企業等での利用状況、合格者の活躍状況等) ■公開(□web、□パンフレット、□募集要項、■その他)…その他(1級・2級登録者名簿の発行、頒布)	A	
	5 継続的な学習支援	継続的な学習支援	○検定試験の「継続的な学習支援」に関する情報が公開されている。	当検定の公式ホームページで公開している。 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…各級等の設定(上位級との関係等) ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…過去問題・類似問題等の情報 ■公開(■web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…必要となる学習内容、合格までの標準的な学習時間 □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…類似試験の有無や関係性・受験者(不合格者)の現状の知識 ■公開(■web、■パンフレット、□募集要項、□その他)…技能レベル □公開(□web、□パンフレット、□募集要項、□その他)…関連する学習機会に関する情報	C	公開項目の拡充について検討を進める。